

# 平成30年度 授業改善推進プラン

学校名 豊島区立千川中学校

校長名 紅床 直也 (公印省略)

## 1 授業改善の取組に対する自己評価

<評価基準>A満足できる Bおおむね満足できる C改善を要する

No.	項目	内 容	評価	評価の説明
1	実績・取組	29年度の「授業改善推進プラン」に基づく取組の成果	A ・ B ・ C	昨年度は豊島区教育推進校として「自ら学び、課題を解決する資質の育成」を研究主題とし「千川中スタンダード」を教員の授業改善だけでなく、生徒へも千川中の授業として「学習の目標」「個人解決」「集団解決」「振り返り」と打ち出し、生徒が主体的に学び、課題を解決する力を育てた。28年度から生徒や教員アンケート、学校評価の分析を繰り返してきた。現在では、話し合う活動がすべての授業内で自然と取り入れられるようになり、生徒同士の意見交換も活発になっている。今後も学び合い、互いに深め合えるように授業改善に努めていかなければならない。
2	30年度学力調査の結果分析	30年度学力調査の結果分析から見えた成果や課題等について	A B ・ C	課題の1つは、国社数理英の5教科すべてにおいて達成率が豊島区よりも大きく下回っていることである。どの教科も学力下位層の生徒が3割程度いる。達成率を上昇させるには「千川中スタンダード」の実践とともに、下位層への授業や家庭学習への取り組み方指導、課題解決することへの喜びを与えるなど、個別指導が必要である。hyper-QUの結果から学習支援レベルを分析し、配慮が必要な生徒を教職員で共有していく。今年度の研修ではICT、言葉かけ、振り返りの3つの分科会を設けて、それぞれの分科会で資料提供を行い授業改善を行っている。生徒の6割はICT活用に興味を示し、言葉かけによる励ましや振り返りの充実を図り、できなかったを増やさない授業づくりなど、下位層の生徒が主体的に授業に参加するきっかけづくりを、校内研修を通して実践していく。
3	教員間での課題の共有	教員間で児童・生徒の実態を把握し、課題を共有しているか。	A ・ B ・ C	今年度は7月に、4月に行われた区学力調査の結果を分析するとともに、生徒授業アンケートの結果を教科部会を開き授業改善について話し合う機会を2回設定し、生徒の実態をつかむとともに、全職員で課題の共有を行った。9月には授業公開週間を設定する。教科担当者は授業指導案を作り、校内研修のICT、言葉かけ、振り返りの3つの分科会ごとに研究授業の見学を行い、お互いの授業力向上に努め、課題を見つけ授業改善につなげられるように話し合う。今後はテーマごとの改善策を教員間で広めていけるように、さらに研修会の充実を目指していき「千川中スタンダード」の深化を図る。
4	説明責任	学校の学力向上の取組や内容が保護者に理解されているか。	A ・ B ・ C	5月には保護者会を開き「千川中スタンダード」の実践の講話や、評価評定の説明など、学力向上の取り組みを保護者へ伝えている。夏季休業中には教育相談を行い、4月に実施した区学力調査の結果を保護者へ説明するとともに生徒へ学力向上のアドバイスをしている。学校だより及びホームページを活用し学力調査の結果とその分析を載せ、成果と課題を各家庭へ通知している。

## 2 自校の教科指導における課題と改善の方策

教科	課題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する調査項目 (3年生)			
国語	各学年とも全領域に渡って、全国達成率を下回っている。特筆して課題となっている領域は見あたらないが、学年が上がるにつれて全国比との差が大きくなっていることから、授業の在り方を抜本的に見直していく必要があると考える。一方で、3年生に関しては国語を好きな教科とする割合がわずかに上昇しており、生徒のニーズに合わせられている側面もある。	各学年ともほとんどの領域で全国得点率を下回っているため、各領域の活動を根本的に見直していく必要がある。特に学年が上がるごとに全国得点率からの低下が顕著なため、学年間の指導内容が、上位学年で既習事項として定着している事を確認し、さらに既習事項を活用した学習を心がけたい。その中で、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いて考えたりする「集団解決」の場面をより充実させることが課題である。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校		自校	
			77.0%		34.4%	

社 会	<p>全学年で区平均、全国平均より大きく下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は全体的に意欲が高い。観点2の部分に課題が見られ、授業でも思考・表現の面に課題を感じている。</li> <li>・2年生は観点1、3、4の二極化が顕著になり、中位層が大きく数を減らしている。下位層の底上げが課題であると考ええる。</li> <li>・3年生は観点3と4の二極化が顕著であり、下位層の底上げが課題である。同時に観点2の部分が全体的に弱いことも課題である。</li> </ul>	<p>・自分で考え、まとめる時間と課題を設定する。表面的な理解や他人に任せる話し合いではなく、自分で答えを持ち、それを他者と発展させることで課題解決を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業目標の明確化とそれに対応する振り返り学習を充実させることで、学ぶべきポイントや重要点を明確化し、授業ごとに何を学んだのかをしっかりと理解させる。</li> <li>・2年生と同様の取り組みとともに、観点2の上昇のため、話し合い等のグループ学習を充実させる。しかし、意見を活発化するため、適切な課題提示と時間設定が必要であり、その点を留意事項として行う。</li> </ul>	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校		自校	
			67.0%		46.9%	
数 学	<p>前年度との達成率の差が、全学年で10ポイントから18ポイント下降した。特に学力定着下位層の割合が高く、学習の仕方が身につけていないなど、基本的な学びの姿勢に課題がある。領域においては、これまで同様、関数、図形の理解が弱く、問題を把握する力の不足や形式的な処理だけでは解決できない場面に適切な対応ができないことが見られる。</p>	<p>学力下位層の生徒への対応を工夫し、強化する必要がある。まずは数学に向かせるための手立てとして、授業の中での指導と個別指導とに分けて考えていかなければならないだろう。基本的な知識や技能が身につけていないことから、やればできる体験をひとつひとつ地道に実践し、劣等感を薄めていく取り組みは不可欠である。学びの大切さが実感できるような指導を心がけ、学びの姿勢の向上を図りたい。</p>	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校		自校	
			70.0%		31.3%	
理 科	<p>ほとんどの学年において区平均を下回り、前年度までの学習内容の定着に問題が見られる。1学年は科学的な事象への興味・関心が高く、成果が出ているが、天体や電流など、目に見えない事象・現象についての得点率が低くなっている。2・3学年では、年度当初に実施した単元の得点率が非常に低く、3学期に学習した内容では正答率が高い。生徒が復習に当てている時間が少ないことが大きな要因と考えられる。</p>	<p>全学年において今後、記憶の強化を行う必要がある。また、理論立てて自然の事象・現象を考察し、復習時に定着しやすくする必要があり。授業では覚えるべき単語を確認する時間と、自然の事象・現象に対して疑問をもち、仮説を立てて真実を追究する活動と体験を行う時間の2つをひとつの単元に設定する。また、家庭学習・小テスト等を活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図りたい。</p>	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校		自校	
			66.0%		25.0%	
英 語	<p>2年生は全ての観点で全国平均を下回った。「聞くこと」「書くこと」は全国と同じくらいの数値だったが、「読むこと」「話すこと」の得点率は低い。「強勢や区切りについて話す」「英文を正しく読み取る」「考えや気持ちを伝える」が弱い。3年生は観点3以外は全国平均を上回った。「聞くこと」「話すこと」の得点率が低い。基本的な単語や英文を書くことはできるが考えや気持ちを伝える力が弱い。</p>	<p>2年生は音読練習の際に、スラッシュ読みを強化し区切りに気をつけて考えながら読むよう指導する。教科書やワークの中文を授業で時間をとり読ませたい。また、ターゲットセンテンスを使って語順を徹底させる。3年生は、身近な生活の場面設定の中で関連づけた文を発展させる力を身につけさせたい。</p>	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校		自校	
			74.0%		43.8%	

### 3 自校の課題と改善の方策

教育課題	課 題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する質問項目 (3年生) ※肯定的回答の割合
授業でのICT活用	<p>給食のメニューを毎日、教室の電子黒板に送信したり、クラスによっては、一日の予定を送信しているクラスもある。このことは、生徒にとって身近に感じ、良いことだと思う。また、タブレットが各階に置かれていて、すぐに授業で使える体制をとっているのもとても良いと思われる。今年度の研修では、ICTの活用をテーマに考えている校内研究分科会もあるので、今後に期待したい。</p>	<p>教科の学習目標が効果的に達成されるために、ICT機器の活用を授業改善の方策の1つとする。今後も研修会を通して、各校のICTの活用方法を参考にし、自校に活かしていきたい。また、タブレットが使用したい時に、故障などで使えないことがないようにメンテナンスをしっかりと行いたい。また、講師や企業などの協力も考えながら、ICTの活用方法を探していきたい。</p>	電子黒板やタブレットを活用した授業は活用しない授業よりもわかる。
			自校
言語活動の充実	<p>自校の回答が50%を下回っていることから、話し合いや発表の形態の授業が生徒の感覚として少ないことがわかる。一方でホワイトボードなどを活用した新しい話し合い活動に対して興味を示している生徒もある。</p>	<p>各教科の授業の中での言語活動をより活発なものにすると共に、他者の発言の要旨を的確に聞き取り、内容を深めるような必要がある。また、他者の考えに対して素直に受け入れたり、新しい発見に関心を示すなど、相手意識を重視して活動に向かわせるようにしていきたい。</p>	授業の中で話し合ったり、自分の考えを発表したりする機会が多い。
			自校

豊島 ふるさと 学習の 充実	現3年生は第1学年の総合的な学習の時間に豊島区調べをして文化祭での発表、2年生では、多くの生徒が職場体験で地域の方々にお世話になり勤労体験をさせていただき、都内めぐりを通して東京の文化や歴史などを学んでいる。防災ジュニアスタッフ訓練を通して消防団の方から、防災教育を学んでいる。	今後も、区が行っている東アジア文化都市2019豊島のロゴアンケートに参加したり、学校近隣で普段から利用する生徒が多い国指定重要文化財の富士塚を訪れたり、学ぶ機会は多くあるので、総合的な学習の時間などを利用しながら、豊島区の文化や歴史教育を盛んにし、自分たちの住む地域に誇りを持たせ、魅力を感じさせたい。	自分が住んでいる地域が好きである。
	自校		75.0%
学校 図書館の 充実	本校では、全校一斉朝読書に取り組んでおり、卒業までに1万ページ読むことを目標として掲げている。教室に学級文庫を置いたり、廊下にミニライブラリーを設置したりして、常に生徒が本を手にとれるような環境を整えている。生徒のアンケートからも、朝読書によって読書の楽しさを知ることができて良かったという感想が多い。課題としては、教科の授業で、もっと学校図書館を活用していくことが挙げられる。	今年度、公共図書館からの団体貸し出しを各学年で1回、教科で1回行い、行事や教科の調べ学習に役立てている。食育でも、栄養士に、オリパラ給食の資料を提供した。また、公共図書館や司書にブックトークを依頼し、読書指導に協力していただいている。司書には、学校図書館のオリエンテーションや図書委員会のイベントにも協力してもらった。これからも、地域の公共図書館や司書と連携し、読書指導や調べ学習を充実させていきたい。	学校や地域の図書館で本を読んだり知りたいことを調べたりすることがある。
	自校		28.2%
道徳教育 の 充実	自分の感性に合わない人間を卑下したり、敵視したりして攻撃してしまう傾向が特に低学年に見られる。周囲の人間もそういう場面でいさめたり注意することもなく、傍観してしまっている。上位学年になると露骨な場面は少なくなるが、関係性の親密化と言うよりも単なる「棲み分け」のような印象がある。価値観の違うものを広い心で受け入れ、認め合うような関係性を作る指導が必要と考える。	道徳の授業及び教育活動全体を通して、さまざまな場面で話し合いをする習慣をつけさせるとともに、その指導を通じて、他者の意見や個性を尊重する姿勢を身につけさせたい。自分と異なる考えや完成を認め、自分もまた認められる体験を通して、「人間を尊重する姿勢」を当たり前生徒たちに定着させたい。「考え、議論する道徳」の実践を通して、人間性の涵養を目指す。	人の役に立つことを、自分から進んですることがある
	自校		65.7%
体力向上	・年々基礎体力が身につけていない生徒が増えてきている。特に1年では柔軟性や筋力、2年では投力、持久力、筋力、3年では柔軟性が東京都と比べ劣っている。 今後、体育の授業や休み時間、部活動の在り方、地域とスポーツ交流の関わりを見直して、計画的に活動することを明らかにした。	・体育の授業では年間通して10分間走、体づくり運動、サーキットトレーニングを取り入れ基礎体力を固めた。また昼休み、体育館でのボールを開放し、運動させることにした。また球技の単元では、ボールの扱い運動を多くし、巧緻性を高め、ゲームを多く取り入れ、集団での技術や技能を高め、試合を進めていく上での役割を明確にし、チームとして課題解決していく取り組みを多くさせた。	運動することが好きである。
	自校		87.6%
教員の 授業力 向上	平成28・29年度の豊島区教育委員会研究推進校としての研究によって、生徒の学習意欲を高めるための授業力向上に全教員で取り組んだ。今後は、本校独自の学習スタンダードにおける「振り返り」や「言葉かけ」の質をさらに高めたいこと、問題解決的な学習への意欲を高めるためのICT機器を活用した授業実践が課題である。	全教員で「千川中スタンダード」を活用した全教科での授業実践の継続し、全教員による授業公開と研究授業を行い、相互評価により授業改善に努める。また、分科会形式（「振り返り」「言葉かけ」「ICT機器の活用」の3つの分科会での研究）を導入した研究協議会の実施する。ICT機器を活用した授業実践とタブレット活用授業の研修会を行い、授業スキルを磨く。	学校の授業はよく分かる。
	自校		81.3%

### 自由記述（幼小中一貫教育連携プログラム、学力調査とハイパーQUの活用など）

千川中では、要小と高松小と連携を深めることで、9年間の義務教育の充実やスムーズな学びなど、児童・生徒たちに効果的な教育を施すことができるように協議を重ねてきた。「基礎学力の定着を図るための学習指導の工夫」というテーマのもと、各校での授業見学や分科会ごとの情報交換を通して、あいさつや授業規律について3校共通の取り組みを完成させ、現在も継続指導をしている。また、昨年度は社会科の出前授業、今年度は英語科の授業見学を通して小中で一貫した授業展開を作っていて、授業自体の質を向上させるために連携強化を図っている。また、部活動体験などを通して、児童と生徒との交流する機会を作り、子どもたちどうしが主体的に交流を深められるようにしている。

校内の特別支援委員会では、学力調査とhyper-QUの結果から支援が必要な生徒の情報を校内で共有し、個に応じた手立てを全職員で確認している。支援レベルに合わせた配慮により、より細やかな学習指導を行い、達成率向上の取り組みの1つとしてしている。また、全学級の学力調査とhyper-QUの結果をSCとも共有し、積極的な声かけを行ってもらい生徒同士の小さなトラブルなどの発見につなげている。

今年度も防災ジュニアスタッフの活動を続け、地域との連携を深めるとともに、災害などしものときの備えと対応について学び、AED操作やD級可搬ポンプによる消火訓練を行い、助けられる人から助ける人へなろうと意識を高めている。

昨年度の豊島区教育推進校の研究をさらに進化させるために、ICT機器を使った教育活動の充実を図る分科会を作り、研修会を通して教職員でICT機器について学び、学習活動の意欲を高める工夫、授業内容の理解を深める工夫を行っている。

教 科	課 題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は、意欲的に合唱や話し合い活動に取り組む。しかし、見通しをもって、学習活動を行うことができるように、めあてを明確に示すべきであった。</li> <li>・2年生は、学習内容を整理させるために、授業後の振り返りを充実させるべきであった。また、問題解決において、自分の意見や考えをもつことが課題であるため、声かけや授業形態等を工夫していく必要がある。</li> <li>・3年生は、意欲的に取り組む生徒が多いが、知識、理解に関して二極化の傾向にある。読譜や記譜など基礎的な能力を全員に定着させるために、個別指導を丁寧に行い、到達度を定期的に把握することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して、見通しをもって学習活動を行うことができるようにめあてや活動内容を明確に伝えることを心がけていきたい。また、振り返りの際は、学習内容を整理させて、生徒の理解をより深めるために、ワークシートや発問等を工夫して、振り返りを丁寧に行っていくように努める。</li> <li>・2年生は、自分の意見を発表したり、話し合ったりすることができるように、グループ活動を充実させていく。他者の意見や価値観を知ること、課題に対しての考えを深めることができるようにしていく。</li> <li>・3年生は、合唱や鑑賞等、あらゆる単元の授業で、音楽記号を活用したり、読譜を行ったりすることで、基礎的な知識の定着を図りたい。また、ワークシート等を使用して、到達度を把握するように努めていく。</li> </ul>
美 術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は「着席し、私語を慎み、課題に取り組む」という基本姿勢ができていないため、導入が浸透しにくい。まず落ち着いた環境をつくる必要がある。</li> <li>・2年生は、昨年度より、学習のねらいや自分の考えを持って課題に取り組めるようになってきたが、それらを作品に表現できるところまで持ってこられていない。発想・構想を膨らませる工夫が必要である。</li> <li>・3年生は、意欲的に課題に取り組む生徒が多く、少しずつ技術力、表現力が向上している生徒がいる一方で、導入の理解力が低く、スタートから出遅れてしまい、遅れを取り戻せないまま、やる気を低下させてしまう者もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は、課題のねらいを毎時間伝え、そのうえで、今日ほどこまで進める予定かを明確に指示する。意欲と理解力の差が激しいので、足並みを揃えつつ、各生徒の能力に合わせて指導する。</li> <li>・2年生は、課題の導入時に発想を引き出せるような発問を増やし、各生徒がオリジナリティのある構想を練られるような時間を取る。ワークシート、グループでの話し合いなどの工夫をする。</li> <li>・3年生は、導入で今日のめあて、達成度合いを明確に示し、理解度に差が出ないように徹底する。グループごとに意見をまとめ、発表させる機会を増やすことで、理解力の底上げを図り、作品の質の向上を目指す。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は体を動かすことが好きで、ほとんどの生徒が運動部に入り、意欲的に活動に取り組める。しかし、話を聞き、見通しをもって活動をすることができない。</li> <li>・2年生は体力の差があり、二極化の傾向にあり、授業の取り組みとしては難しいものがある。そこで、お互い助け合って意見や考えをもつことができるように働きかけていくことにした。</li> <li>・3年生は助け合い、声をかけ合って意欲的に取り組む生徒が多い。基礎的な技術や技能を身につけることも早く、レベルの高い取り組みができる。ただ、持続性に欠けるため、行動のメリハリをつけさせるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は見通しをもって学習活動を行うことができるよう、明確な指示やアドバイスをし、人の話を落ち着いて聞くことを心掛けさせ活動させた。</li> <li>・2年生はグループ活動を多くし、ねらいや振り返りをグループ内で話し合わせ、自分の意見や考えが伝えられるようにした。また個別指導も丁寧に行った。</li> <li>・3年生は活動が持続できるよう授業の内容を工夫し、お互い楽しく、協力しながら技術や技能の定着を図り、ゲームを多くして、お互い助け合う授業展開をした。</li> </ul>
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は授業のメリハリについてかけている部分がある。これは機械を使用する際にとっても危険が伴う。千川中学校の木工室には大きな事故につながるような機械はそこまでないが、一歩扱い方を間違えると危険なものもある。勝手に機械を使ったり、間違った使い方をして、注意されることもあった。ただ、作業をすることはとても好きで積極的に行っている。</li> <li>・2年生は高温になるはんだ付けの作業を行っているが、取り扱いに注意しながら行っている。</li> <li>・3年生は計測・制御の授業を行っているが、プログラミングにとっても興味があり前向きに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生にメリハリを徹底させると共に、机間巡視を増やす。また、工具や機械の危険な扱いには厳重に注意する。最近では、のこぎりやげんのう、といった工具がある家庭は少なくなっていると思うので、できるだけ作業時間を増やす。また、環境問題という角度からも物の大切さやリサイクルについても考えさせたい。</li> <li>・2年生では人数が少ないメリットを活かし、今後も1人1人に丁寧な指導を行っていききたい。また、2学期からは栽培の作業を通して、命の大切さや食育につなげていきたいと思っている。</li> <li>・3年生でも2年生同様に、2学期から栽培を行う。また、中学生が大人になる頃、AIの進歩が著しいと思うので、計測・制御の授業を通して、興味を持たせ、次のステップにつなげたい。</li> </ul>